

(学校運営協議会・報告様式)

令和6年度 第2回 牧田小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和6年8月29日(木)14:30～15:30

2 場 所 多目的室

3 あいさつ(学校長, 委員長)

<委員長>

・感染症が拡大している。今回の学校運営委員会は、学校保健委員会と兼ねているので、学校医さんからもぜひ話を聞きたい。

<校長>

・令和6年度全国学力学習調査の質問内容で、「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている」と回答している児童の割合が高く、本校も同様である。今日の学校保健委員会の中でも議論していけるとよい。

4 協議事項

『インターネット・ゲームの依存について』

ア 養護教諭より

☆保健室より(・保健室の様子・ノーメディア週間の取組報告・アンケート結果)【別紙】

- ・風邪や熱等病気以外の頭痛の症状で来室する児童が多い。
- ・5月に怪我が多かった理由は、今年は運動会が5月にあったことによる。
- ・ノーメディアの取組は校区全体で継続して取り組んでいる。
- ・ノーメディアの取組により、増加した時間(リアルな生活)について、児童に保健だより等で伝えている。リアルな生活を豊かに過ごすことが大切である。
- ・学年が上がるにつれて就寝時間が遅くなる傾向があるが、思ったよりも早めに寝ている児童が多い。
- ・心の健康、体の健康のどちらに関しても、インターネット依存傾向にある児童の方が、不調と答えた割合が高い。

イ 学校医より

☆ネット・ゲーム依存と問題

- ・20代の若者の文章能力・コミュニケーション不足の患者が多い。
- ・スマホの依存症を予防するために時間設定をするとよい。スクリーンタイムでアプリの使用時間を見ることができる。子どもであれば、これをもとに使用制限をかけるとうい。
- ・デジタル機器の害については、インターネット依存症テストを活用するとわかる。
- ・ゲーム依存と、ゲームが最優先ではまってしまう。なぜはまってしまうかというと、インターネット上で自分が「いいね」等評価されることで居心地がよくなるからである。

- ・ ゲームやスマホ等の依存症になると、ドーパミンが放出され、前頭前野の血流が減り、人が人らしく考える機能が低下する。
- ・ 最近は授業でも ICT 機器が利用されているが、デジタルは見栄えははっきりするが、理解しにくい。情報量が多すぎるために脳に負荷がかかり、脳過労の症状が出る。
- ・ 記憶量を使わなく健忘症を起こしている
- ・ スマホの人体への影響を予防する(ゲーム・ネット依存にさせない)ために、ルールは子どもと一緒に決める。決めたことは書いて貼っておくとよい。
- ・ 子どもがネットで何をやっているか把握しておくことが大切である。
- ・ ゲームやネット以外にも楽しいと思えることや自信をもってできることを作っておく。
- ・ 基本的にはやり過ぎはよくない。

ウ 協議内容(○:委員の発言 ●:回答等)

○	ドーパミンを無理やり出させるのはよくないと言われるが、運動競技等ではむしろドーパミンを出した方が記録も伸びてよいというので、スマホやインターネットでも出た方がよいのではないか。
●	ゲーム依存になってしまうと、ゲームでしかドーパミンが出なくなるのでよくない。脳の発達を阻害し、言語性発達を遅延する。
○	自然体験や遊びの中で社会経験、非認知能力をつけるメリット。子どもを見守りながら遊ぶということも考えていけるとよい。学校にいる時間帯に遊ぶ時間を上手につくってほしい。
○	何でもデジタル化するのではよいのではなく、社会人になったときに本当の力がつけるように指導していったほしい。
○	睡眠時間に重点をおいているが、起床時間や朝ごはんにも注目してほしい。
●	睡眠時間がとれないと、起床時間や朝ごはんにも影響が出るのでまずは睡眠時間をしっかりとるようにしていきたい。
○	授業でも ICT 機器を使うようになってきているが、ネットとアナログの調べ学習の効果についてはどうか。
●	ネットで調べると調べた気になっていて整理して理解することがうまくできない人が多い。海外ではネットからアナログへ見直している国もある。
○	リアルとネットのゲームに違いについてはどうか。
●	リアルは五感を刺激する。
○	小学校から高校生までの子どもがいるが、依存度は年齢が高くなるにつれて上がるが、友だち付き合いの関係から制限をかけることは難しいのが現状である。
●	ネットとうまく付き合っていくことが大切である。